

広報広聴特別委員会会議記録

【開催日時】 平成28年5月26日（木）
午前10時3分～午後0時2分
（休憩：午前10時40分～午前10時50分）

【開催場所】 第1委員会室

【出席委員】

委員 長	長谷川 知 司	副委員 長	河 野 朋 子
委員	大 井 淳一朗	委員	笹 木 慶 之
委員	下 瀬 俊 夫	委員	中 村 博 行
委員	矢 田 松 夫	委員	山 田 伸 幸
委員	吉 永 美 子		

【欠席委員】 なし

【委員外議員等】 なし

【事務局出席者】

局 長	中 村 聡	局 次 長	清 水 保
書 記	原 川 寛 子		

【付議事項】

- 1 議会報告会のあり方について

【議事の概要】

- 1 議会報告会のあり方について

○前回の委員会の確認（議会報告会か市民懇談会か）について

- ・6月と12月は議会報告会を市民懇談会に似た形でこちらから出て行ってはどうかという声があったが、どうか。
- ・前はテーマを絞って、こちらから出掛けていくということでほとんど全員が一致したところである。
- ・市民懇談会と報告会の位置付けをきちんと明確化してどうするかをしないと話が進まない。
- ・6月は子育てという具体的なテーマが出てきた。
- ・議会報告会と異質になるという指摘があった。前回そこが確認されていない。
- ・市民と意見交換することはいいことなので、市民懇談会自体はやるべきだと思う。ただ切り離すとなると、議会報告会はどうするのか。
- ・条例は2回となっているので条例には反しない。実施要綱は今から変更できるので、絶対4回報告会をしないとイケないという縛りは条例にはない。

- ・議会報告会を年4回以上やってきたのが売りなのに、年2回となるのはどうなのかという形式論で言われているのではないか。
- ・議会報告会の要綱にも市民との意見交換という文言がある。議会報告会と市民懇談会を原点から崩す形は好ましくないし、趣旨に反している。
- ・テーマとするにしてもベースは議会報告会であるという姿勢が大事だと思う。
- ・議会報告会という形を取るのであれば、どうしても不特定多数の人に来てもらう形になるので、特定の団体にこちらから行く形は取れないのではないか。
- ・団体に声掛けして来てもらうというイメージだったので、議会報告会からは外れないと思っていた。
- ・子育て中の方は参加しやすい場所にこちらから行かないと話が聞けないと思う。
- ・イベント等でやっているような託児のイメージだった。
- ・3月議会報告会で出た意見での検討状況を次の議会報告会で報告するという考えでいいか。
- ・議会報告会を年4回ということにこだわらないと合意するのであれば、要綱の条文の変更を検討しないと前に進まない。
- ・6月と12月は通常の議会報告会をした上で、懇談会もやるという方法もあるが、時間が取れるかどうかがある。
- ・市民懇談会という形を取るにしても年4回、市民の前で話をするというのは変わらない。
- ・前は議会からの報告がなく、意見交換をするという話だったから議会報告会の範ちゅうではないという話をした。議会報告をし、意見交換するのであれば議会報告会の範ちゅうに当然入る。
- ・年4回必ず議会報告会をするという今の縛りにこだわると、いろんな形で出て行くのが難しくなるので、最低3月と9月は報告会をして、6月と12月は柔軟に懇談会と切り替える対応をしたらどうか。
- ・今までも十分意見交換をやってきた。
- ・いろんな世代の人のところに出掛けて、いろんな人の声を聞こうという発想なので、今までを検証した中で出てきた案である。
- ・そもそも今まで自分の考えを発言したり、意見交換ができていなかった。今の範ちゅうを変えないと自分たちも動きにくい。
- ・実施要綱の中の報告内容に新たに4番として「その他市政において重要な課題とか、重要なテーマ」といったものを加えれば報告会という形でできるのではないか。
- ・実施要綱を変えることによって、議会報告会の範ちゅうの中で動ける形を取ればいいのか。
- ・6月と12月は議会報告会をしないで市民懇談会に切り替えるとなると議会改革が後退しているイメージを持たれてしまうので、議会報告会にはこだわりたい。
- ・子育てというテーマにすると民福以外の委員はどうするかという問題もあり、まだ議論に時間が掛かるので、6月は従来どおりの形がいいと思う。
- ・確かに子育てのテーマは民福が中心になるかもしれないが、ほかの委員にも

地方創生など関わりがあり、大事である。

- ・子育て支援はオール山陽小野田市議会で取り組んでいくということなので、これまでとは少し違った形で全議員で対応することになる。
- ・一気に変えるのは時期尚早なので、とりあえず会場を自治会館などに変え、地域課題について意見交換したらどうか提案した。
- ・自治会懇談会とのすみ分けが問題になる。
- ・簡単な行政の報告は担当委員会がして、意見交換については全議員が話すべきである。

○総括について

- ・最終確認には至っていないが、企画広聴部会でまとめをしていた。それが全く顧みられていない。
- ・「今後の議会報告会の進め方」に上げられたものに沿って動いていると思っている。
- ・文書を示して一つずつ確認をして進めていくべきである。
- ・これまで部会で意見があった6月と12月の方向性を変えるということを尊重している。
- ・これまでの議論を踏まえた総括文書を出した上で検討すべきではないか。
- ・文書も今後きちんとする必要があるかもしれないが、今日は具体的な議論を進めていきたい。
- ・急に6月と12月の議案がなくなったわけではない。議会報告会の軌道修正をしようとしているが、なぜ6月と12月なのかということも含めて総括が要る。
- ・広報広聴委員会では確認されていないので、それを抜きに進むのはどうか。一定の方向性を出すべきである。
- ・企画広聴部会で作った文書は回数だけでもめていたと思う。6月に間に合わせるために同時平行で進めていけばいいのではないか。
- ・総括が進んでいない。方向転換するのであれば根拠を示して総括すべき。

■結論：委員長が前回の報告書を基に総括を作る。

- ・前回の広聴部会の文書について納得いかないところを具体的に指摘してもらって作成するほうが、皆の一致が得られやすいと思う。
- ・説明責任とあるが、議会の最低限の説明責任としたほうがいい。
- ・「過程の報告に終始しており」の意味が分からない。
- ・審議の途中でどういう議論を行ったかというときにこう議論していますと言わなければならない。
- ・過程よりも「終了した議案の審議経過」がいいのではないか。
- ・2番の今後の議会報告会の進め方については具体的なものはほとんど何も書いてないので、総括文書にならないのではないか。
- ・今後の進め方については新しい広報広聴委員会に委ねられている部分である。
- ・議会報告会で出た意見は委員会に割り振り、所管事務調査してちゃんと報告するというところを入れてほしい。
- ・参加者が少ないという問題だけを議論していたらそれに足を取られてしまう可能性がある。

- ・ 3 番、5 番以外ほとんど皆が一致しているのであれば、具体的な開催方法について議論を進めたほうがいい。
- ・ 基本的な問題がきちんと議論されていない。

○次回の委員会について

- ・ 子育てクラブ・サークルの資料を担当課からもらっているので、どういうところに行くのか検討する。
- ・ 委員長が作成する総括について検討する。
- ・ 次回の委員会開催日 6月1日（水）午前10時から

平成28年（2016年）5月26日

広報広聴特別委員会委員長 長谷川 知司